

## 仙山線、貴重な遺構

### 「魅力を語る会」で講話



鉄道愛好者や仙山線沿線住民らが語り合った座談会  
―仙台市作並の岩松旅館

JR仙山線について、その歴史をひもときながら地域の財産として沿線振興につなげていこうと、座談会「仙山線の魅力語る会」が先日、仙台市青葉区作並の岩松旅館で開かれた。

仙山線や旧関山街道沿いの市民団体代表らが一昨年12月に組織した関山街道フォーラム（会長・平川新東北大災害科学国際研究所長）が14日に開催。鉄道愛好者や宮城、山形両県の約100人が参加した。

後藤光亀東北大学院工学研究科准教授が「土木遺産と

しての仙山線の魅力」と題して講話。仙山線は1954（昭和29）年、日本で初めて鉄道の交流電化試験が行われた交流電化発祥の地と強調し「来年が60周年の節目。土木学会の選奨土木遺産認定を目指す意義は大きい」と、数多く残る貴重な遺構を保存し発信していこうと呼び掛けた。後半は、旧国鉄関係者や沿線住民らが仙山線にまつわる思い出を熱く語った。

◇ 同協議会は20日午後1時半から、仙台市青葉区下愛子の広瀬市民センターで関山街道フォーラム講演会「仙山交流の楽しさ面白さ」を開く。参加無料。問い合わせは同センター1022(392)8405。